

ポルトガル月報

2018年1月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政・外交】★社会民主党、リオ元ポルト市長を新党首に選出

【経済】★センターノ財務大臣、ユーログループ議長に就任

内政・外交

●ソウザ大統領、新年のメッセージを発表

1月1日、ソウザ大統領は新年の挨拶を発表した。大統領は2017年の世界情勢について、平和と自由経済が求められる中、脅威と保護主義に直面したとしつつ、ポルトガルでも喜びと悲しみの相反する出来事があったと述べた。

同大統領は、グテーレス元首相の国連事務総長就任、財政・銀行の安定、雇用の回復、過剰財政赤字是正手続の終了、そしてセンターノ財務相のユーログループ議長就任、また、ポルトガル人歌手によるユーロビジョン優勝、IT分野や文化・芸術・スポーツの成功を背景とした観光業の盛況等を振り返りつつ、一方において多くの犠牲者を出した大規模森林火災を痛ましい出来事として想起した。その上で新年は気持ちを改めて前を向いて進んでいくことを呼びかけた。



【写真】新年の挨拶を述べるソウザ大統領(大統領府HPより転載)

●サントス・シルヴァ外相、外交セミナーで講演

1月3日、サントス・シルヴァ外相は外交セミナー(外務省主催)で講演し、ポルトガル外交の柱は欧州統合、大西洋、CPLP、在外ポルトガル人コミュニティにあると述べた。その上で2018年は、ポルトガルの経済、社会、高等教育、文化、言語教育、科学及びイノベーションの国際化を図っていく必要があると述べた。

また、今後の主要な予定として、第3回目となるWEBサミット、メキシコのグアダハラ国際図書展への招待国として参加、ポルトガルの日(6月10日の国祭日)式典の米国における開催(ソウザ大統領及びコスタ首相が参加予定)、(マゼランの)世界周航500周年を挙げた。

●ポルトガル海軍巡視船、ギニア湾沿岸警備に協力

1月3日、リスボン市対岸のアルマダ市に位置するアルフェイテ海軍基地で、ギニア湾沿岸の警備ミッションにあたるポルトガル海軍の巡視船2隻の出航式典が行われた。30年前から続くポルトガルとサントメ・プリンシペ両国間の防衛協力の一環。

同式典に出席したアゼレード・ロペス国防大臣は、「ギニア湾一帯は何世紀にもわたり、国際貿易上の重要なルートであり、石油や炭化水素資源も集中している。ポルトガル船籍を含め、この一帯の安全を守ることは重要」と述べた。

【写真】式典の様子(ポルトガル政府プレスリリースより転載)



●コスタ首相、第4回南欧サミットに参加

1月10日、ローマにおいて、ポルトガル、イタリア、フランス、スペイン、キプロス、ギリシャ、マルタ各国首脳に参加の下、第4回南欧サミットが開催された。ポルトガルからはコスタ首相が参加した。

会合においては、経済成長、エネルギー安全保障、移民、雇用等の問題について議論が行われた。



【写真】サミットに出席した各国首脳（ポルトガル政府プレスリリースより転載）

●コスタ首相、党首討論で重点政策を説明

1月9日、ポルトガル共和国議会で「2018年の重点政策」をテーマに党首討論が行われた。

コスタ首相は第一に、国民所得の向上につながる良質な雇用の創出を目指すとして主張。その上で、高度人材の育成に向けた教育投資の拡充や、先端技術分野の発展が重要と説明した。

また、国土の価値向上に向け、地方分権化と森林改革を推進すると述べた。EUの現状にも触れ、「18年は経済通貨同盟の改革と20年以降の戦略的枠組みを定める上で重要な1年になる」との見解を示した。

●アンドラ首相、ポルトガルを訪問

1月12日、アントニ・マルティ・アンドラ首相がポルトガルを訪問し、コスタ首相と会談した。

会談では、アンドラのポルトガル人コミュニティが取り上げられ、同国からポルトガルの公共サービスにアクセスするための電子署名に関する合意文書の署名が行われた。



【写真】会談する両国首相（コスタ首相公式ツイッターより転載）

★社会民主党、リオ元ポルト市長を新党首に選出

1月13日、社会民主党（PSD）の党首選が行われた。同選挙においては、パッサス・コエーリョ党首（前首相）に支持されたサンタナ・ロペス元首相と中道左派で反主流派のリオ元ポルト市長が争ったが、結局、リオ候補が54.4%の得票を得て次期党首に当選した。



新党首は2月16～18日に開催されるPSD党大会において就任する予定で、パッサス・コエーリョ党首

は政界を引退する意向を示している。

【写真】握手するリオ新党首とパッサス・コエーリョ党首（PSDプレスリリースより転載）

●コスタ首相、スロベニアを公式訪問

1月17日、コスタ首相はスロベニアを公式訪問した。ミロ・ツェラル首相と会談したほか、ボルト・パホル大統領、ミラン・ブルグalez下院議長を表敬訪問した。ポルトガルは2021年にドイツとスロベニアと共にEU議長国に就任予定で、本件訪問は同就任に向けた準備に資すると述べた。



【写真】コスタ首相（左）とボルト・パホル大統領（コスタ首相の公式ツイッターより転載）

●韓国国会議長、ポルトガルを訪問

1月18日、丁世均韓国国会議長をはじめとする議員団がポルトガルを訪問した。

同議長はソウザ大統領、コスタ首相をそれぞれ表敬訪問したほか、ロドリゲス共和国議会議長主催の歓迎式典に臨んだ。コスタ首相は、同会談は両国が関係深化に向けて互いに努力していることを示すものであったと述べた。



【写真】握手する丁世均韓国国会議長（左）とコスタ首相（同首相の公式ツイッターより転載）

●ユーロソングジェン社の世論調査結果—1月

1月19日、週刊エスプレッソ紙はユーロソングジェン社が実施した世論調査の結果を発表した。2017年8月以降の政党別支持率は以下の通り。

■調査期間：1月14～17日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者1158人、調査方式：電話帳から固定電話番号を無作為に抽出、回答率：85.8%、統計上の誤差：3.07%

■PS=社会党、PSD=社会民主党、BE=左翼連合、CDU=統一民主連合（ポルトガル共産党・緑の党）、CDS=民衆党、PAN=人と動物と自然の党

【問】本日が選挙日ならばどの政党に投票するか。

%	2017年					2018年
	8月	9月	10月	11月	12月	1月
PS	40.8	40.3	41.0	40.0	40.2	41.3
PSD	28.1	28.7	28.0	28.4	27.9	26.9
BE	8.4	8.4	9.0	8.7	8.6	8.5
CDU	7.6	7.3	7.5	6.9	7.0	7.0
CDS	6.9	6.8	6.0	6.6	6.9	6.9
PAN	1.1	1.5	1.4	1.7	1.7	1.8

●ソウザ大統領、国家評議会会合を開催

1月19日、ソウザ大統領は、今年初めての国家評議会会合を開催し、2020年以降の開発計画について議論した。

政府は現在、「ポルトガル2030（開発計画）」策定に向けた準備を進めており、その観点からEU基金を活用した2021～27年のプロジェクト案の策定を急いでいる。



【写真】国家評議会会合の様子（コスタ首相の公式ツイッターより転載）

●NATO事務総長、ポルトガルを訪問

1月26日、ストルテンベルグNATO事務総長がポルトガルを訪れた。2月14、15の両日にブリュッセルのNATO本部で開催される国防大臣会合を前にポルトガル側と意見交換を行うのが目的で、ソウザ大統領、コスタ首相、サントス・シルヴァ外相、ロペス国防大臣らと会談したほか、リスボン市及びその郊外のNATOの関連軍事施設を視察した。

ストルテンベルグ事務総長は国防省で開いた記者会見で、「ポルトガルは防衛費の削減を止め、再び増し始めた」と述べ、加盟各国の防衛費を2024年までにGDP比の2%相当に引き上げるとした、NATOウェールズ首脳会合（2014年）の合意内容に沿っているとして、ポルトガル側の姿勢を歓迎する意向を示した。

また、サイバー防衛分野の人材を養成するNATO通信情報アカデミーがリスボン近郊のオエイラス市に

来年開設予定であることや、NATOのミッションで、今年4月からポルトガル軍兵士160名がアフガニスタンのカブール空港の警備にあたることなどに触れた上で、ポルトガルはNATOにとって「重要な同盟国」と述べた。特にアフガニスタンの駐留部隊の増強は、「テロとの戦い」において重要との見方を示した。

【写真】ストルテンベルグNATO事務総長と会談するソウザ大統領（右中央：大統領府HPより転載）



●コスタ首相、欧州議会を訪問

1月31日、コスタ首相は欧州議会（ブリュッセル）を訪れ、2017年1月7日に92歳で亡くなったポルトガルのソアレス元大統領の功績をたたえるイベントに出席した。

ソアレス元大統領はポルトガル社会党の共同創設者で、76～78年と83～85年に首相、86～96年に大統領、99～94年に欧州議員をそれぞれ務め、欧州建設プロジェクトの推進に尽力したとされる。

今回、逝去1年のタイミングに合わせ、議会内の会議場の一つがソアレス元大統領の名を冠することになった。同イベントには息子のジョアン・ソアレス氏（前文化大臣、元リスボン市長）、スペイン元首相のゴンサレス元首相、ポルトガルの欧州議員らが駆け付けた。

コスタ首相はこのほか、トウスク欧州理事会議長やユンカー欧州委員会委員長とそれぞれ会談し、欧州が抱える課題などについて意見交換した。

【写真】ソアレス元大統領をたたえるイベントに出席したコスタ首相（左2番目：同首相の公式ツイッターより転載）



経済

●失業率、2005年2月以来の低水準に

1月8日、ポルトガル国立統計院（INE）は、2017年10月の失業率が、2005年2月以来の低水準となる8.4%まで下がったと発表した。

INEの統計によれば、失業人口は43万5000人で、前月から4600人減少した。INEは、2017年11月の失業率を8.2%と予測しており、実現すれば2004年11月以来の低水準となる。

●2017年財政赤字、対GDP比1.2%の見通し

1月9日、コスタ首相は、2017年の財政赤字の対GDP比が1.2%に、また、公的債務残高の対GDP比が126.2%となる旨を発表した。

財政赤字の対GDP比は、当初の政府予測では1.4%であり、コスタ首相は12月にこれを下方修正して1.3%としており、今回、更に下方修正されたことになる。

★センターノ財務大臣、ユーログループ議長に就任

1月12日、センターノ財務大臣は、ユーロ圏財務相会合（ユーログループ）の議長に就任した。

17日、議長として初めてのスピーチで、同財相は、今般の議長就任はポルトガルが困難を乗り越えて経済危機を脱却したことが評価されたものであるとしつつ、同じ熱意を持ってユーロ圏の挑戦に取り組むと述べた。その上でユーロ圏は近年の困難を乗り越え、確固たる回復基調に入ったことを指摘しつつ、ユーロ圏改革を進める好機が到来していると強調した。

また、構造改革、財政規律、経済成長、弱者の支援を挙げ、各国の政策協調の重要性を訴えた。このほか、ユーロ圏の統合を一層進めるべきとし、銀行同盟の完成を最優先課題とする旨を述べた。

【写真】 デイセルブルーム
前ユーログループ議長と
センターノ財務大臣（同大臣
の公式ツイッターより転載）



●コスタ首相、世界経済フォーラムに出席

1月23～26日、コスタ首相は世界経済フォーラム会合に出席するため、ダボスを訪れた。センターノ財務大臣、カデイラ・カブラル経済大臣等が同行した。

コスタ首相は、ロウレンソ・アンゴラ大統領、ラガルドIMF専務理事、モスコビッチ欧州委員等と会談したほか、ポルトガルへの投資等を呼びかけるセミナー、海洋の持続的利用に関するセミナー、欧州の将来

に関するパネル等に参加した。

また、コスタ首相はスピーチで、2017年WEBサミットの成果として、グーグル社が欧州・中東・アフリカをカバーするサービスセンターを6月にリスボン近郊のオエイラス市に開設し、500名の雇用が創出される予定である旨を発表した。

【写真】 フォーラムで
発言するコスタ首相

（左から2番目：同首相の公式ツイッターより転載）



●ポルトガル、IMFに約8億ユーロを前倒し返済

1月24日、ポルトガル財務省は2011年の債務危機の際に国際通貨基金（IMF）から受けた金融支援のうち、21年5、6月に償還期限を迎える8.31億ユーロを前倒しで返済したと発表した。

同省によると、ポルトガルはIMFから263億ユーロの融資を受け、これまでに約83%を返済。経済回復と財政再建の成果を反映して市場での資金調達コストが低下し、15年11月から前倒し返済を進めている。これまでの利払い費の節約額は8.5億ユーロに上るといふ。

同省は12月にも約10ユーロをIMFに前倒し返済したばかりで、その際、18年以降も早期返済を続けるとの意向を示していた。

●政府、地方への外国直接投資呼び込みに意欲

1月24日、ブリリヤンテ・ディアス外務省国際化担当副大臣は、ポルトガル市町村協会（ANMP）本部（コインブラ市）で開かれた会合に出席し、地方に多くの外国直接投資を呼び込み、雇用創出につなげることを目的として、AICEP（ポルトガル投資貿易振興庁）とANMPとの間で、今年3月末までに協力覚書を交わす考えを明らかにした。

同担当副大臣は「我々が外国人投資家と話す時、彼らに最適な進出先について情報提供できるようになることは大変重要」と述べ、今後、政府として、各地方自治体のビジネス環境に関する情報を収集・分析し、外国人投資家の地方進出をサポートするとした。（了）